



特集にあたって

## 人間力と地域力を掘り起こす

調査研究部 川井 真

### 特別寄稿

### 『農業と野生の科学』

- 「野生の科学」とはなにか
- そもそも農業とはなにか
- 現代における「交差空間」の運命
- 幸福のあり方  
(J A愛知東女性部・懇談会報告を含む)

中沢 新一

〔 明治大学 特任教授／  
野生の科学研究所 所長 〕

### 研究報告

### 『僻地医療とコミュニティ・アート ～高齢社会におけるサイエンスとアートの新たな融合～』

- はじめに
- サイエンスとしての医学
- サイエンスとアート
- 奥三河の山里での取り組み
- 密画と略画
- おわりに

川井 真

〔 一般社団法人 J A共済総合研究所  
調査研究部 主席研究員 〕

この特集を企画するに至った背景をご理解いただくために、まずは、このなかに登場する人々や組織との出会いを、そしてそれが新たな結びつきへと発展していく過程をご紹介させていただき、そのうえで特集の趣旨とあらましをお伝えしたいと思います。

J A愛知厚生連足助病院の早川富博院長にはじめてお会いしたのは、もう、かれこれ10年以上も前のこととなります。J A愛知厚生連の当時の理事長であった細江詢次氏からお誘いがあり、名古屋駅の近くでお会いして意見交換をすることになったのですが、そのメンバーのなかに早川先生がおいでになりました。この会は、まさに厚生連事業のあるべき姿を本音で語りあう、熱気と緊張感に満ちた会でした。事業論と運動論の狭間で葛藤しな

がらも、厚生連事業の本質を語り、ぶれることのない信念を貫き通そうとする皆様の姿に、とても感動したことをいまでも鮮明に憶えています。

それから月日は流れ、足助病院と三河中山間地域を定期的に訪問するようになったのは、じつは最近のことです。3年ほど前になりますが、平成22年の初夏、足助病院から「三河中山間地域の再生にむけて、足助診療圏に住まう全住民を巻き込んだアクションリサーチを实行したいので協力してほしい」という内容の相談が入ります。もちろん迷わずお引き受けしましたが、なによりもその行動力に驚きました。そこで、まずは三河中山間地域の現状を把握し、実証研究の内容と方法を確認し、そして研究資金を調達するために、公

募のあった外部競争的資金の獲得に動き始めたことがはじまりでした。

これが採択されて活動がスタートし、地域には早川先生が発起人となって「三河中山間地域で安心して暮らし続けるための健康ネットワーク研究会」も組織されました。そして、これらの活動の一環として開催された勉強会の会場で、JA愛知東の河合勝正組合長にお会いすることになります。河合組合長にはじめてお会いしたとき、穏やかな物腰と優しいまなざし、そして気さくなお人柄に惹きつけられました。しかし、お話を伺っているうちに、その志の高さに圧倒されたことを思い出します。

このような状況に歩調を合わせるかのように、JA共済総研では「食・エネルギー・ケアを基盤とする農山漁村地域の内発的発展モデルに関する調査研究」という事業計画を立ち上げます。これまでの研究とはスタイルを一新し、実践的地域研究いわゆるアクションリサーチを実施するための研究を事業計画に盛り込んだのです。研究のための研究ではなく、地域力と人間力と創発に期待した、その地域に暮らす人たちが主役となる創造的な研究です。

そして、この特集に寄稿してくださった、日本を代表する思想家のひとりであり、文化人類学者としても著名な中沢新一先生と出会ったのもこの時期です。このころに中沢先生は多摩美術大学から明治大学へ移籍することになるのですが、その件について明治大学の関係者の方からご連絡をいただき、その方を介して中沢先生とお会いすることになったのです。その後まもなく、明治大学に新しい知の拠点として「野生の科学研究所」が設立されることになり、中沢先生が所長に就任し、わたしは客員研究員兼事務局長として研究所運営に参画することになります。また、この

研究所には足助病院の早川先生にも客員研究員として参加していただいていることから、足助病院が2012年に開催した「香嵐溪シンポジウム」では、中沢先生と早川先生、そして河合組合長による鼎談も実現することができました。いまでは、中沢先生と野生の科学研究所のスタッフが三河地域を頻繁に訪れるようになり、河合組合長が主催する会議（意見交換会）も定期的に行われるようになりました。まさに信頼に基づく人間と人間のつながりが、研究と活動の推進力になっていったのです。

この特集に寄せた二本の論考は、いまご紹介したJA愛知厚生連足助病院の早川富博院長とJA愛知東の河合勝正組合長が中心となって、三河地域（西三河・東三河）なかでも高齢化と人口減少が顕著な奥三河中山間地域で推進してきた活動の一部を、すこし学術的な考察も加えながら報告をさせていただくものです。具体的には、住民運動あるいは社会的事業ともいえるような地域の協働活動を支え、また推進してこられた人たちとの対話をとおして、あるいは活動そのものに参加させていただくことによって、そこに何があったのか、その意識と行動が内包する本質的な意味や価値とは何であるのかを、もう一度捉えなおしてみようという試みでもあります。

そこで特集では、中沢新一先生には「農業」というものに隠された本質的な意味や価値を取り出していただき、それをJA愛知東女性部との意見交換や活動視察で得られたものと重ね合わせながら、これからJAが選択すべき道を探っていただきます。そしてわたしからは、足助病院の地域医療の取り組み、なかでも今回は文化的活動にフォーカスして、それを多角的かつ広角的に捉えなおして報告をさせていただきます。